



ちいきそうぞう

持続可能な地域の創造に向けて Step by Step !!

特定非営利活動法人 (NPO法人) にいがた地域創造センター

第21号

2025.12.24

主な活動状況



身近な社会資本見学会

万内川サマーフェスティバル



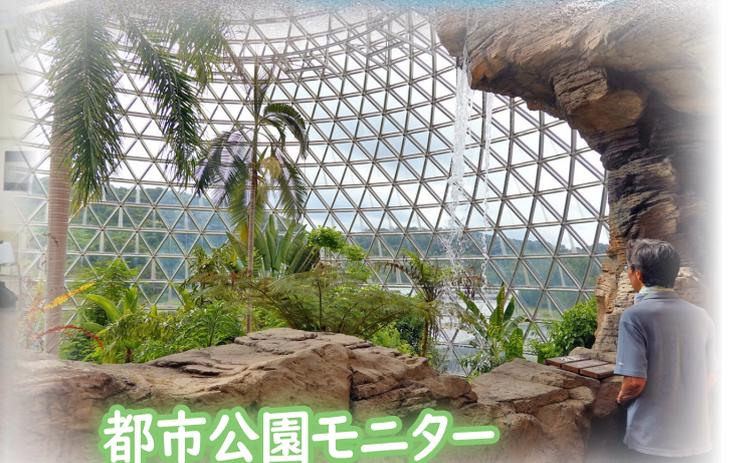
緑化フェア記念植樹



河川情報モニター



第9回地域懇談会in魚沼



都市公園モニター

広報誌「ちいきそうぞう」の内容は、ホームページに詳しく紹介していますので、こちらもお覧下さい

にいがた地域創造センター 検索
<https://ngt-tiikisouzou.jp>



ご挨拶

理事長 棚橋 元



街路樹が葉を落とし、寒さが一段と身に染みる季節となりました。会員の皆様、関係機関の皆様には日頃よりNPO法人にいがた地域創造センターに対しご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当センターは、会員自らが建設技術の知識や行政経験を活かして社会貢献活動を行う拠点として、平成15年に設立され、これまで、まちづくりや社会資本の維持などに関わる多様な活動を続けてまいりました。

具体的な活動として、新潟県が所管する公共インフラの維持管理を支援する「河川情報モニター」や「都市公園情報モニター」に取り組むとともに、自然災害発生時の支援を行ってきました。また、新潟県土木部(一財)新潟県建設技術センター主催の研修等へ講師を派遣し、技術の伝承にも寄与しているところです。

新潟県の人口は2050年には152万人と2020年の7割まで減少すると見込まれています(国立社会保障・人口問題研究所)。建設分野でも人口減少による大きな影響が懸念され、その対策にはDXによる業務や組織の革新等も挙げられていますが、やはりベースとなるのは人材の確保・育成です。

建設系の高校生を対象とした「身近な社会資本の見学会」を新潟県から受託しており、今年も山の下関門排水機場と通船川を題材に、低平地における社会資本の役割についての講義、信濃川と通船川との2mの水位差を実感できる乗船体験を行った他、鳥屋野潟湖岸堤整備工事の現場見学と工事に従事する建設技術者との意見交換もしていただきました。参加された生徒の皆様が土木に対する理解を深め、将来の職業選択へとつながっていくことを期待してやみません。

今年は阪神淡路大震災や7.11関川・姫川水害から30年という節目の年でした。近年、気候変動に伴う豪雨や大規模地震などの自然災害が頻発化・激甚化しています。発災後の初動対応とそれに続く復旧・復興に当たっては、地域の守り手である建設産業の力が無くてはならないものであり、日頃からの行政との連携強化が重要です。地域の建設産業と建設行政との橋渡し役も当センターの活動の柱であり、関係者の交流の場として「地域懇談会」を開催しています。今年は魚沼市で開催し、多くの皆様からご参加いただきました。

また、当センターのホームページではコンテンツを拡充し、関係の深い4団体(新潟県建設技術協会、新潟県建友会、NPO新潟県砂防ボランティア協会、にいがた道の研究会)の活動状況を掲載していますので、ご活用いただければ幸いです。

これらの取組は諸先輩が少しずつ改善を図りながら築き上げてきたものであり、社会貢献を通じた地域活性化に一定の効果を上げているものと思います。これからも地域のお役に立てるよう、会員の皆様と一緒に考えながら地道に取り組んでまいりますので、引き続きのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現に向けて

新潟県土木部長 清田 仁

特定非営利活動法人にいがた地域創造センター会員の皆様には、日頃より河川巡視パトロール等、本県土木行政の推進に向け、ご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。

今年も梅雨前線や台風による集中豪雨により、九州をはじめ全国的に甚大な被害をもたらす災害が発生しています。

県内においても、8月から9月にかけて佐渡市や県北地域を中心に大雨による道路崩落や河川護岸の損傷等の被害が発生しており、現在、被災箇所の本復旧に向け職員一丸となって対応しているところです。

このように、近年の激甚化・頻発化する自然災害を目の当たりにして、改めて気候変動の脅威を感じるとともに、県民の命と暮らしを守るためには、防災・減災の取組のより一層の推進が必要であると強く実感しております。

また、今年1月には、埼玉県八潮市で下水管路の損傷に起因した道路陥没事故が発生するなど、高度経済成長期に建設されたインフラ施設の老朽化の進行は本県においても喫緊の課題となっており、今後も、流域治水対策や土砂災害対策などの防災・減災対策に加え、インフラの老朽化対策を着実に推進していかなければなりません。今年6月には、改正国土強靱化基本法に基づき「第1次国土強靱化実施中期計画」が閣議決定されたことから、本県も中長期的な見通しのもと、これら地方財政措置に有利な財源を最大限活用しながら、引き続き防災・減災、国土強靱化対策の推進を図ってまいります。

一方、激甚化する自然災害から県民の安全・安心な暮らしを守るためには、「地域の守り手」である建設産業の活性化が不可欠であり、経営基盤の強化、人材の確保・育成、さらにはDXによる生産性の向上など、様々な観点からの取組が求められています。

このため、県では「第四次・新潟県建設産業活性化プラン」に基づき、週休2日適用工事やICT活用工事の推進、バックオフィスDXの推進支援など、働き方改革と生産性向上に向けた取組を推進するとともに、現在、有識者を交え今後の方向性や施策等について議論するなど、次期第5次プランの策定に向け作業を進めているところです。また、人材確保の取組として、本年2月に建設産業の魅力発信ポータルサイト「ビルドニイガタ」を創設し、県内外の若年者に向けて発信を行っています。貴センターの皆様からも土木・建築系の高校生を対象に「身近な社会資本の見学会」を通じて、建設産業の魅力と重要性を知ってもらう取り組みにご協力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

県といたしましては、県総合計画の基本理念である「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現に向け、引き続き取り組んでまいりますので、貴センターの皆様からもご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

活動状況報告

(令和6年11月1日～令和7年10月31日)

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

令和6年

- 11月7日 令和5年度会計監査
- 11月27日 第82回理事・監事会議
・第22期(令和6年度)通常総会議案(案)について
・理事・監事及び役員の変更について他
- 12月18日 第83回理事・監事会議
・理事・監事の退任、就任及び承諾について
・第22期(令和6年度)総会資料の確認について
- 第22期(令和6年度)通常総会
・第21期(令和5年度)事業報告及び収支決算の承認について
・第22期事業計画(案)及び収支予算(案)について
・役員の変更について
(正会員253名 内 出席92名 委任状提出者160名 (全252名))
- 講演会及び懇親会
・講師：トキエア(株)代表取締役 長谷川 政樹 氏
・講師：新潟県土木部長 深田 健 氏
- 12月25日 第84回理事・監事会議
・理事長・副理事長の互選について

令和7年

- (4～9月) 河川情報モニター [新潟県からの依頼]
- (通 年) 都市公園情報モニター [新潟県からの依頼]
- 2月12日 河川情報モニター地域担当者会議
・新潟県における治水対策について
・令和7年度河川情報モニターの実施計画
- 4月1日 建設技術協会特別会員部との受託契約
- 4月29日 第38回新潟県都市緑花フェア
棚橋理事長が記念植樹
(新潟県スポーツ公園)
- 5月16日 新潟県土木部職員研修「指導者(課長)」
講師派遣
- 5月23日 第1回役員会議
- 5月23日 新潟県土木部職員研修「災害復旧(模擬査定)」
講師派遣
- 5月29日 けんせつセミナー「初任者技術研修」
「災害復旧(1)」講師派遣
- 5月29日 都市公園情報モニター担当者会議
・新潟県都市公園情報モニターについて
・情報モニター活動時の事故対策について

- 6月5日 新潟県土木部職員研修「河川に関する特別講義」
講師派遣
- 6月23日 第85回理事・監事会議
・今年度事業について 他
- 7月10日 けんせつセミナー「自然災害時の危機管理」
「自然災害の基礎知識」講師派遣
- 7月15日 いがた道の研究会 第20回トーク会
参加者48名 [支援事業]
- 7月22～29日(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
パネル展(登録有形文化財万内川石積堰堤群等)
会 場：道の駅あらい(くびき野情報館)
来場者245名 参加会員延べ16名 [支援事業]
- 8月1日 万内川砂防公園 環境整備事業
参加会員39名 [支援事業]
- 8月9日 万内川砂防公園サマーフェスティバル
来場者 1,327名
参加会員 29名 [支援事業]



- 8月25日 「身近な社会資本の見学会」の事業実施に向けた担当者会議
・見学会事業の実施概要について
・実施における運営体制について
- 9月3日 「身近な社会資本の見学会」[受託事業]
・対象者：
新発田南高等学校土木工学科環境土木コース
2年生 生徒23名、引率者2名
・実施内容
①室内学習
身近な社会資本の役割、建設産業の役割、担い手育成を資料で学ぶ
②既存の社会資本見学
乗船体験：山ノ下閘門排水機場、通船川
③建設中の社会資本見学
鳥屋野濁築堤工事：新潟県発注
- 9月30日 第9回地域懇談会in魚沼
参加者54名(企業数21社)
- 10月24日 新潟県土木部業務研修
「危機管理広報(クライシスコミュニケーション)」
講師派遣

新潟県とNPO法人にいがた地域創造センターと連携した「地域を支える建設産業の底力発信事業」

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

第12回 身近な社会資本の見学会

見学会会場 施設管理者
新潟地域振興局地域整備部

去る9月3日(水)、新発田南高等学校2年生を対象に「身近な社会資本の見学会」を開催いたしました。昨年と同様に、山ノ下閘門排水機場(乗船体験)と鳥屋野濁築堤工事を見学して、地域を支え暮らしを守る建設産業の魅力と重要性を学んでいただきました。生徒の皆様さんから、とても有意義であったと好評でありました。企画・運営等、ご協力をいただきました貴センターの皆様へ感謝申し上げます。



鳥屋野濁築堤工事の見学状況

■ 新発田南高等学校生徒さんの感想

- 乗船体験では、実際に船に乗せてもらい、閘門の開閉や、閘門内での水位上昇や下降を体験させてもらった。川を船で渡ることが今までなかったのでも新鮮だった。山の山ノ下閘門排水機場の閘門は、観音開きで開かれ、迫力があり、開かれると同時に水が入りこみ水位の上昇なども体験できた。初めての感覚であり少々驚いた。また、船に乗りながら、普段あまり目にする事のないような橋の下などを見ることができた。本当に貴重な体験ができ、閘門などのありがたみがわかった。
- 今回の見学会を通して土木はいろいろな場所で役立っていると分かりました。建物をつくるだけでなく、地盤改良やインフラなどが暮らしに必要なことにも役立っています。山ノ下閘門排水場や、通船川の乗船体験な

ど普段できない体験をできて良かったです。鳥屋野濁の工事でも近くで見ることが出来て良い経験になりました。若手社員のお話もとても参考になりました。

- 今回の実習では、県の職員と民間の職員、両方の視点での仕事が見れてとても良かったです。県の職員は、河川の管理などの仕事。民間の仕事は元請けからの仕事を期日に分けた工程を作って現場を仕切るなどがわかって二つの職務を比較できて勉強になった。本間組の質疑応答でも、学生のうちに学校でやっておいたほうがいいと、就職してから現場で意識しておいたほうがいいこと、就職してからの方がいい良かったことなどと勉強になる数々のアドバイスはこれから先の人生でいかせるものが多くとても有意義だった。

第38回 新潟県都市緑花フェア

令和7年4月29日(月・祝)10:00～
於：新潟県スポーツ公園で開催

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

第9回 地域懇談会 in 魚沼

事業部

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

第9回となる地域懇談会を総勢54名(企業数21社)の参加で、令和7年9月30日(火)に魚沼市で開催しました。

懇談会では、NPOにいがた地域創造センターを紹介した後に、魚沼地域をテーマにした講演を行っていただきました。はじめに魚沼地域振興局地域整備部長の高野斉様から「魚沼地域整備部管内の最近の話題」について、次にエフエム魚沼の志田めぐみ様から「地域メディアの役割～ラジオから見た魚沼市～」についてご講演いただきました。その後、意見交換、懇親を図り、NPOにいがた地域創造センターについて理解を深めていただいた結果、新たに4社の皆さんから賛助会員に入会していただきました。



第22回 万内川砂防公園 サマーフェスティバル

令和7年8月9日(土)10:00～
(環境整備事業)

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

河川情報モニター実施報告 企画部

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

河川情報モニターは、「新潟県河川情報モニター設置要綱」に基づき各地域振興局長から依頼を受けて、平成18年より毎年実施しています。また、令和4年から会員へのアンケートにより、会員の希望を反映した体制構築に努めています。

河川情報モニター 15地区 136名



地域機関名	地域担当者		巡視 河川数	巡視河川 延長(km)	配置人員
	主任	副任			
村上	高橋 一男	長谷川 哲也	8	9.7	6
新発田	出村 豊	椋内 睦夫	1	27.0	9
新津	佐藤 勝行	近藤 守	32	118.7	19
津川	中野 俊	坂井 徹	4	14.8	2
新潟	鈴木 孝英	長谷川 文麿	6	45.6	6
巻	笹川 岳之	鈴木 潤	7	138.4	13
三条	吉田 武	鈴木 則昭	12	107.6	8
長岡・与板・小千谷	吉野 利夫	棚橋 元	18	211.4	25
魚沼	関 浩二	北島 信博	2	36.4	6
十日町	岡田 雅夫	樋口 利幸	9	97.8	8
南魚沼	池田 敏彦	諏佐 夏夫	3	34.6	3
柏崎	吉田 芳郎	今井 英伸	2	34.4	5
上越・上越東	荻原 正彦	本田 誠一	9	141.3	16
糸川川	本田 誠一	荻原 正彦	3	40.6	4
佐渡	藤井 武良	佐藤 暢英	11	56.0	6
計			127	1114.3	136

都市公園情報モニター実施報告

詳細はHPへ
<https://ngt-tiikisouzou.jp>

都市公園情報モニターも、「新潟県都市公園情報モニター設置要綱」に基づき各地域振興局長から依頼を受けて、平成22年より毎年実施しています。

都市公園情報モニター 14地区 28名



公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	三木 公一	福岡 隆
聖籠緑地	野呂 栄一	高橋 幸彦
島見緑地	松川 真	相羽 朋紀
鳥屋野潟公園	女池・鐘木地区	丸山 和浩
	スポーツ公園北地区	大野 昇
	スポーツ公園南地区	有波 修
県立植物園	宮野 岳	熊倉 克喜
奥只見レク都市公園	浅草岳地域	坂西 和也
	大湯地域	山ノ内 久
	須原地域	北島 信博
	小出地域	吉田 芳郎
	道光・根小屋地域	高峰 正俊
	浦佐地域	諏佐 夏夫
大湯水と森公園	本田 誠一	荻原 正彦

編集後記

令和7年は、久しぶりの大雪に始まり、これまで経験したことのない連日の40℃越えと異常少雨の夏、一転してすっきり晴れた日が思い出せないほど連日の雨と異常気象が続きました。そのため新潟県内も農作物に高温と少雨、日照不足の影響が生じており、最近の熊の被害も異常気象が大きな一因ではないでしょうか。

当NPO法人のホームページ(HP)は開設して3年目を迎え、広報誌もHP開設に合わせ前号から装いを一新しています。今号の編集にあたっても見やすい広報誌を目指しました。(M.O)



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 棚橋 元

事務局

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18

(一財)新潟県建設技術センター内3階

TEL / FAX (025) 267-4877

E-mail jimukyoku@ngt-tiikisouzou.jp

URL <http://ngt-tiikisouzou.jp>